埼玉県ＩＣＴ活用　実践事例

ＩＣＴで　授業　をＤＸ！

学年　小学校１年　教科など　算数

ICTで時短＆自分の考えを表現、交流が簡単に！！

使用するアプリケーション等

・Microsoft Teams
・Microsoft Excel
・デジタル学習者用教科書

単元・題材　わかりやすくせいりしよう

本時の目標　ものの個数を種類ごとに整理して、簡単な絵や図に表すことができる。〈知識及び技能〉

ＩＣＴを活用することで　できること

・Microsoft Teamsの課題機能を使うことで、提出した児童それぞれの考えの共有がしやすくなる。
・本時の課題に迫るために必要な準備時間を短縮し、自力解決や練り上げのための時間を多く確保することができる。
・作業の速い児童に合わせて、Microsoft Excelのシートを複数用意することで、個に応じた学習をすることができる。

ＤＸ前（ＩＣＴを使っていなかった頃は・・・）

1　導入

① 問題の図を印刷したものを黒板に貼り、問題を把握する。
② 釣ったものの中で何が多いかを問い、種類ごとの個数を分かりやすく整理する方法を考えることを本時の課題として引き出す。

2　展開

課題　　せいりのしかたをかんがえよう。
① どうしたら種類ごとの数が分かりやすくなるか整理の仕方を考える。
　→ 問題の図を児童に配布し、はさみで図を切らせ、紙を動かしながら整理する方法を考えさせる。
　● より良い整理の仕方を思いついた場合は、変更しても良いことを伝える。
　● 数えれば良いことや並べれば良いことを取り上げ、数え間違いがないような方法を考えさせる。
② ペアでお互いの考えについて交流する。
　● 整理した方法について説明し、お互いの考えで似ている所について話し合う。
③ 釣ったものごとに並べた絵を提示し、何が分かりやすくなったか考える。
　● 数えやすくなったことや端を揃えることで見やすくなったことなどを取り上げる。

3　まとめ

まとめ　　わかりやすくせいりするときはなかまごとにならべる。
①本時の学習を振り返り、感想を発表させる。
　● 分かったことや大切だと思ったことなど視点を与えてから発表させる。
② 次時での学習を予告し、学習意欲をもたせる。
　● 釣ったものを種類ごとに並べただけでは、見ただけで何が多いか判断できないことをおさえる。

DX!

DX後　（赤字はICT活用場面）

1　導入

① 大型提示装置で図を提示し、課題を把握しやすくする。
② 釣ったものの中で何が多いかを問い、種類ごとの個数を分かりやすく整理する方法を考えることを本時の課題として引き出す。

2　展開

課題　　せいりのしかたをかんがえよう。
①どうしたら種類ごとの数が分かりやすくなるか整理の仕方を考える。
　● 数えれば良いことや並べれば良いことを取り上げ、数え間違いがないような方法を考えさせる。
② タブレットPCを使って種類ごとに整理する。
　● Microsoft Teamsで課題を配付し、図を操作しながら整理の仕方を考えさせる。
　● Microsoft Excelでシートを複数用意し、児童がいろいろなやり方を考えることができるようにする。
③児童の考えを交流する。
　● 自分が一番良いと思ったやり方をタブレットPCの画面に出し、学級の児童に説明する。
　● ３人に説明出来たら、席に着く。
　● 発表してもらう児童の考えをスクリーンショットで切り取っておく。
④比較検討する
　● 発表する児童の考えを大型提示装置で提示し、説明させる。
　● 複数の児童の考えを並べて提示し、似ている所について考えさせる。
⑤何が分かりやすくなったか考える。
　● 最初の問題の図と釣ったものごとに並べた図を提示し、数を数えやすくなったことをおさえる。

3　まとめ

まとめ　わかりやすくせいりするときはなかまごとにならべる。
① 本時の学習を振り返り、感想を発表させる。
　● 分かったことや大切だと思ったことなど視点を与えてから発表させる。
② 次時での学習を予告し、学習意欲を持たせる。
　● 釣ったものを種類ごとに並べただけでは、見ただけで何が多いか判断できないことをおさえる。
　● 大型提示装置で図を提示する。

授業者から（成果・課題・留意点）

・図をはさみで切るなどの自力解決のための準備の時間が短縮され、児童の考える時間を増やすことができた。
・図を実際に操作し、整理することで種類ごとに整理することの良さを味わわせることができた。
・Microsoft Excelでシートを複数用意することで作業の速い児童と遅い児童のどちらにも合わせた授業ができた。
・大型提示装置で図を提示することで、視覚的理解を促すことができた。
・タブレットPCの画面は常に作業中のため、教師が児童の考えを把握することが難しかった。